

リュツォ・ホルム湾の海氷状況について

国立極地研究所 南極観測センター

第62次越冬隊および国立極地研究所は、越冬期間中や第63次隊夏期の行動計画の参考とするため、衛星画像や昭和基地における目視・気象・潮汐観測によって、「しらせ」航路周辺や基地接岸点付近の海氷状況を監視している。

昨年2020年の湾内定着氷の状況（主な特徴）

- オングル海峡の開水面領域は、4月以降に凍結した。
- 湾中央に及んでいた割込み領域は、5月下旬時点で凍結した。
- 9月以降は湾北方で氷縁の一部が割れた他、顕著な変化はなかった。

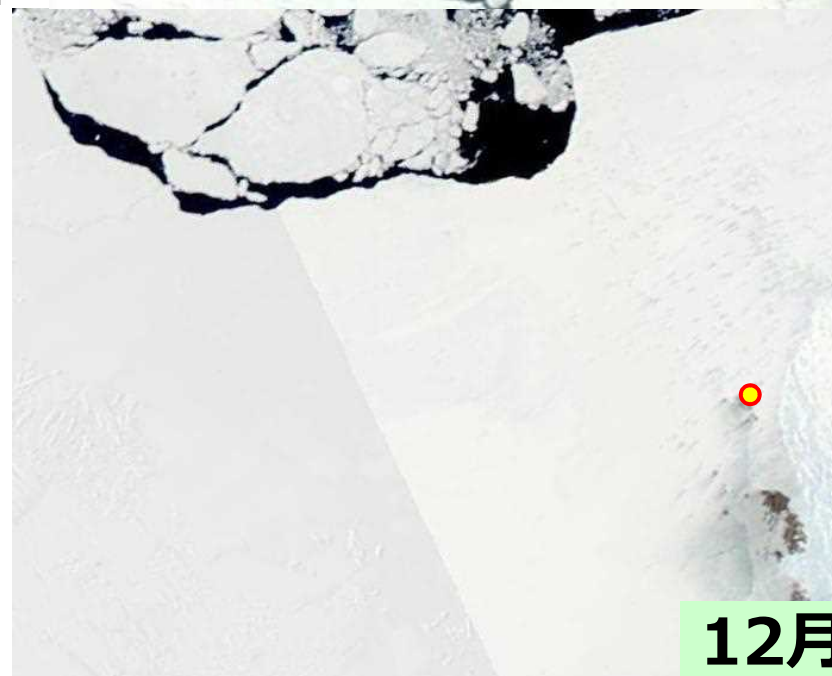
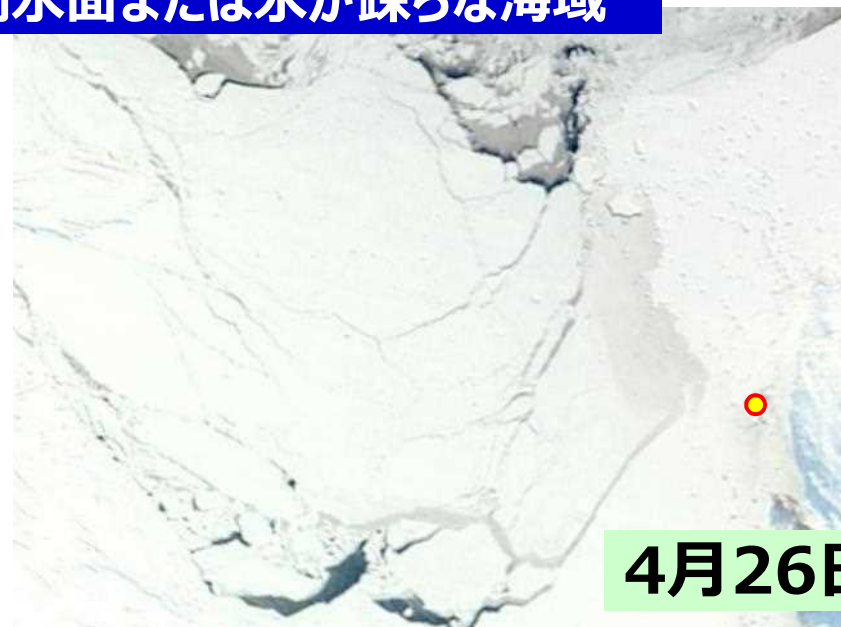
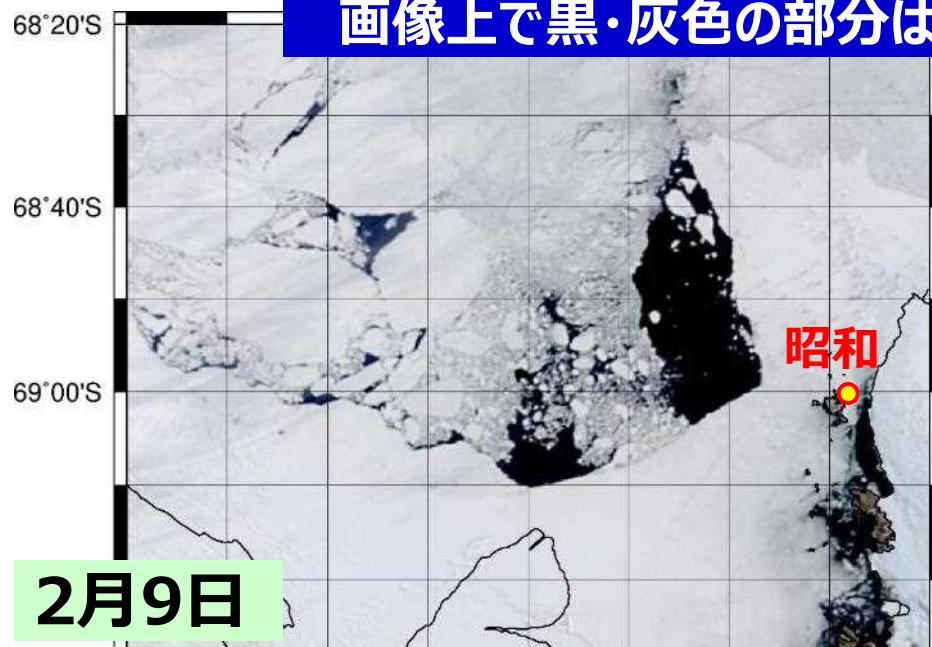
2021年1月以降の現況

- 定着氷縁は3月上旬68°57'Sまで南下、5月上旬68°50'Sに位置している。
- 海峡に開水面は無く、4月中旬で氷厚62-124cm、最大積雪深33cm。

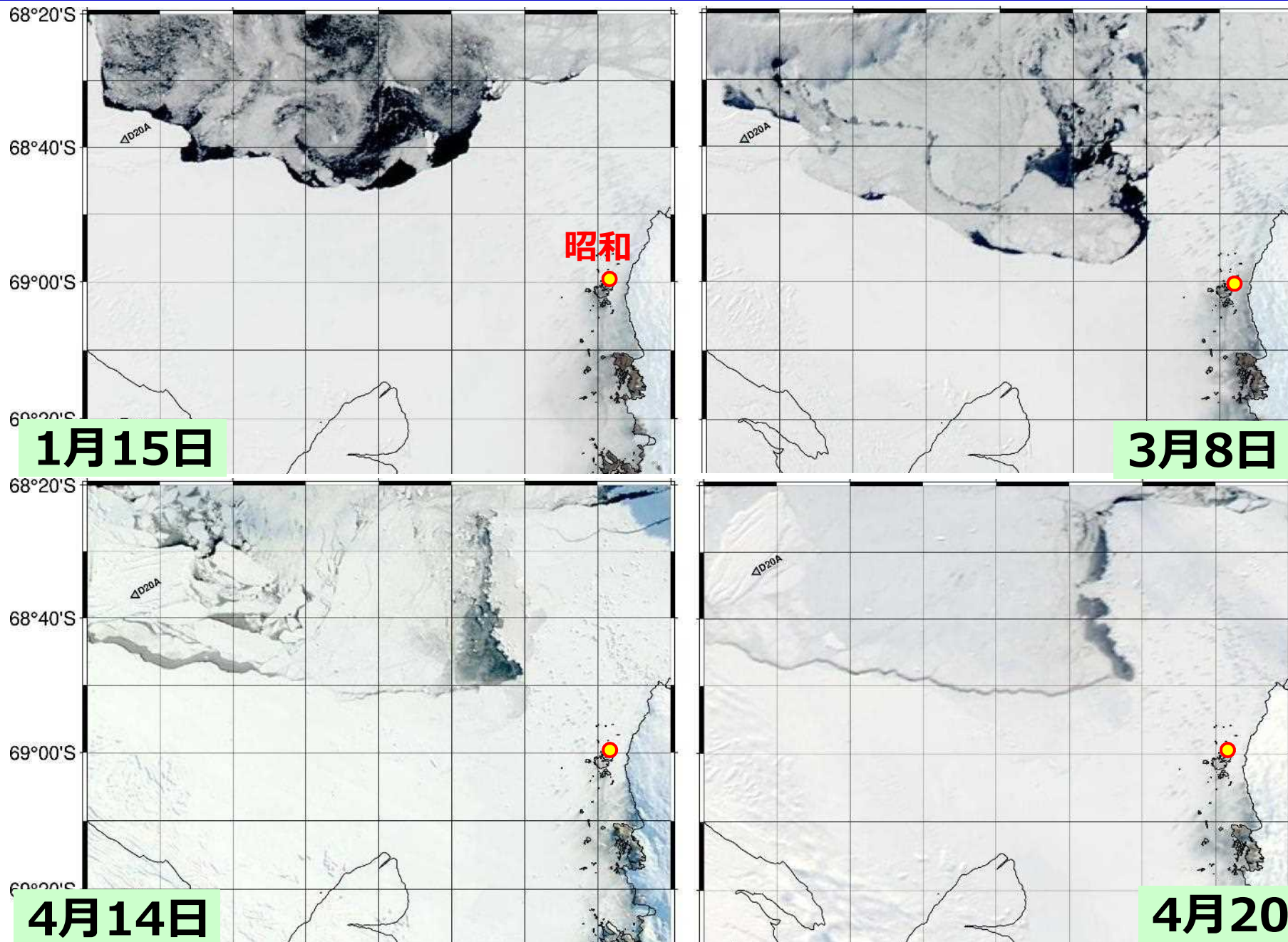
引き続き第62次越冬隊から提供される情報も参考にし、氷状変化を監視する。

昨年2020年の湾内定着氷の変化（可視画像）

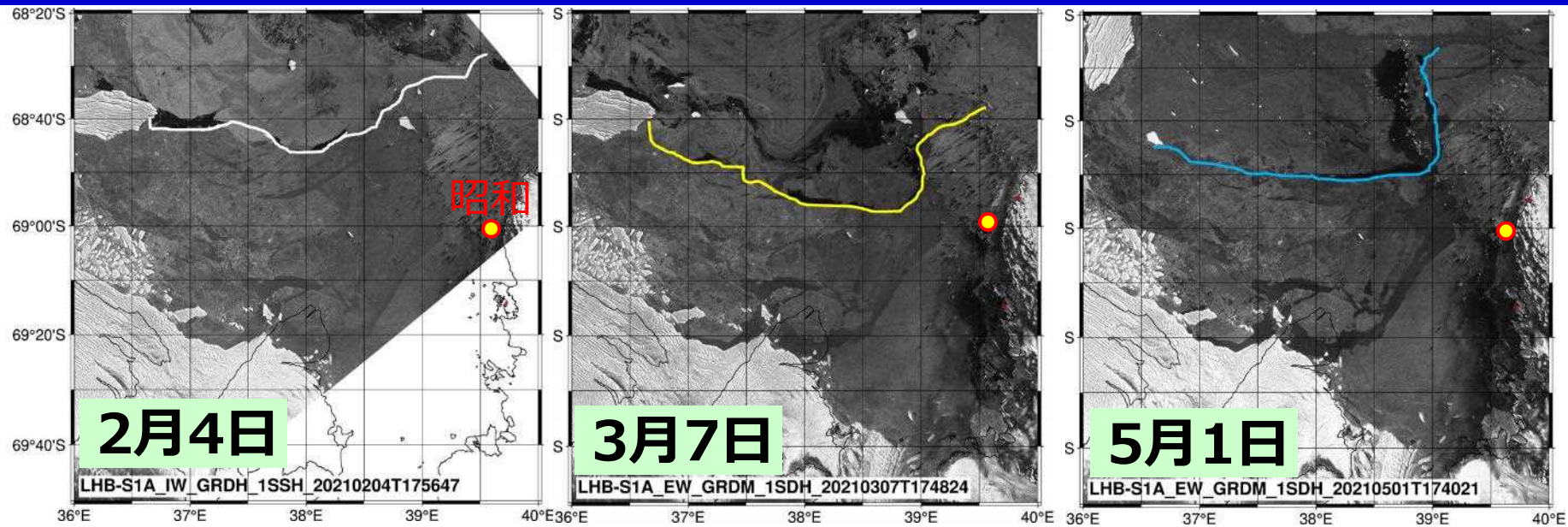
画像上で黒・灰色の部分は開水面または氷が疎らな海域



2021年1-4月の湾内定着氷の変化（可視画像）



2021年2-5月の湾北方定着氷縁 (合成開口レーダー画像)



2021年4月のオングル海峡の氷厚、積雪深 (4月16日測定値)

